

世界のリハビリテーション

——リハビリテーションと障害者福祉の国際比較——

代々木病院 東京大学

二木 立・上田 敏 著

自治医科大学リハビリ
テーションセンター

大 井 淑 雄

世界のリハビリテーションの進展しつつある過程を多角的な面から把握するには、膨大な日数を必要とし困難な課題の一つである。

本書は世界諸国（アメリカ、カナダ、ヨーロッパ）のリハビリテーションと日本のリハビリテーションの動向を客観的に把握するために役立つに違いない。序論として「リハビリテーションの国際比較のための視点」の一章がおかれ、社会全体のリハビリテーションのあり方として、アメリカの技術モデルとヨーロッパ諸国の福祉モデルが書かれ、福祉の

思想と制度についての流れが読み取られる。

各章では歴史的な基盤を背景に、疾病の構造と障害の変容、医療制度、老人福祉と職業的リハビリテーションが詳細に述べられ、かつ最新の統計的資料が豊富で、統計的諸問題になじみの薄い読者でも理解が容易である。国際比較では日本の肌寒い現状が列記されているが、社会・経済的問題、癌疾患のリハビリテーション等の障害者福祉、医学研究の遅れは注目すべきである。

イギリスの国民保健サービス

(National Health Service)、西ドイツの「健康保険検査医(信託医師)」、アメリカの医療保障制度は印象深い。さらにリハビリテーション施設案内が諸国別に集録され、視察見学の折に大いに実際役立つであろう。医学的そして社会的リハビリテーションに直接関係する人達のみならず一般国民の思想向上にも役立つ書と信ずる。

(A 4, 238頁, 1980, ¥ 4,500.
医歯薬出版刊)